

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●トラッキングシステムでの1番人気馬の表示強化

各馬の位置取り・コース上の現在地が視覚的に把握しやすくなるよう、レース中継映像の下部に馬番を表示する「トラッキングシステム」(特別レースや新馬戦などで採用)において、10月3日(土)から、単勝1番人気の馬番に点滅するリングが追加されました(最低オッズの馬が複数いる場合は、そのすべてが対象)。

●ロンジンワールドベストレースホースランキング発表

国際競馬統括機関連盟(IFHA)から恒例の「ロンジンワールドベストレースホースランキング」が発表されました。今回の発表分は2026年1月1日から9月6日までに実施された世界の主要レースが対象(単位はポンド)で、前回第1位タイ(131)だったカーインライジングがHKSARチーフエグゼクティヴズC(G3)のレコードタイム圧勝によりレーティングを135まで伸ばし、単独トップの座を獲得。日本調教馬は4頭が掲載され、フォーエバーヤングとメイショウタバルが第20位タイ(123)、クロワデュノールとマスカレードボールが第25位タイ(122)となっています。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●ジャパントCはシルバーレシオ、フィンガー三冠ならず

ジャパントクラシック(JpnI、3歳、10月7日、大井、2,000^円)は、後ろから3頭目という位置から追いつけた2番人気のシルバーレシオ(横山武史騎手、牡、父ルヴァンスレーヴ)が、先に抜け出した3番人気のワンダーディーンを残り50^mで差し切りました。チェリヴェントが3着に入り、パイロマンサーは5着、ロックターミガンは6着、逃げた二冠馬フィンガーは9着、1番人気に推されたイッテラッシャイは最下位の16着に終わっています。

●レディスプレリユード(大井)でメモリアカフェが重賞4勝目

レディスプレリユード(JpnII、10月6日、大井、1,800^円)は、4番手を進んだ2番人気のメモリアカフェ(クリストフ・ルメール騎手、牝4歳、父ナダル)が、残り200^mを切った辺りで逃げたレイナデアルシーラを捉えて3馬身半差で楽勝。3番人気のテンカジョウは3着、単勝1.4倍で圧倒的人気のダブルハートボンドは4着、アピーリングルックが5着と、JRA所属馬が上位を独占しました。

●地元馬ゼーロスが東京盃(大井)でダートグレード競走初制覇

東京盃(JpnII、10月8日、大井、1,200^円)は、5番手から差を詰めた4番人気の大井所属馬ゼーロス(笹川翼騎手、牡3歳、父ダノンレジェンド)が、逃げ粘る昨年の覇者ヤマニンチェルキをゴール寸前でハナ差交わして優勝。出遅れたトウカイマシェリが3着、2番人気のエコロレーヴは4着、1番人気のサトノボヤージュは6着、サンライズアムールは10着でした。

●10月12日の南部杯(盛岡)で連覇を目指すウィルソンテソーロ

マイルチャンピオンシップ南部杯(JpnI、10月12日、盛岡、1,600^円)は、昨年の覇者ウィルソンテソーロが筆頭格、ルクソールカフェが続き、以下ペリエール、メイショウハチロー、ストレングス、キタノズエッジの順に有力視され、レーベンスティールは初のダートが課題となります。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G1凱旋門賞〜ダリズが連覇達成

現地10月4日にフランスのパリロンシャン競馬場で行われたG1凱旋門賞(3歳以上牡牝、芝2,400^m)は中国のやや後方でレースを進めた地元フランスのダリズ(牡4歳)が粘るG1コロネーションC勝ち馬ベイシティローラーを残り100^mでかわして1馬身1/4差で優勝。2017、18年のエネイブル以来、史上8頭目となる連覇を果たしました(牡馬の連覇は1977、78年のアレジッド以来、史上5頭目)。2着からクビ差の3着に仏1000ギニーや仏オークスなどG1・4勝のダイヤモンドネckレス。2頭が挑んだ日本調教馬はアドマイヤテラ(C.デムーロ騎手)が11着、メイショウタバル(武豊騎手)は14着に終わりました。勝ったダリズは父が2009年の凱旋門賞を制したシーザスターズ、母が同年のG1香港ヴァーズに優勝したダリャカーナで、半兄にはG1ガネー賞の勝ち馬ダリヤンがいる良血。昨年の凱旋門賞でG1初制覇を果たして迎えた今シーズンは4月のG1ガネー賞(芝2,100^m)、5月のアガ・カーンIV世賞(イスパハン賞)(芝1,850^m)と連勝。続いてイギリスに遠征した6月のG1プリンスオブウェールズSは3着に終わりましたが(レース後の血液検査で軽いウイルス感染症に罹っていたことが判明)、一息入れて向かった前走9月のG2フォワ賞(芝2,400^m)でベイシティローラーを下して優勝していました。管理するF.グラファール調教師、騎乗したM.バルザローナ騎手とともに連覇で2勝目です。